

内閣総理大臣 菅義偉 様  
経済産業大臣 梶山弘志 様

2021年4月12日

## トリチウム汚染水の海洋放出は言語道断です

福島第一原子力発電所事故で発生したトリチウム等の  
放射性物質汚染水の海洋放出は許されません

医療九条の会・北海道 幹事会

政府は、今月13日に関係閣僚会議を開き「トリチウム汚染水(ALPS 処理水)を海洋放出」での処分を正式に決定する方針と報じられています。

本会幹事会は、以下の理由により、この政府方針の撤回を強く求めます。

1. 【医学的に無謀な方針です】「汚染水」に含まれる主要放射性物質であるトリチウムの健康影響を強く懸念する医学的知見があることを無視して海洋放出するという取り返しのつかない「処分」をすることは予防原則に反しています。現状のタンク備蓄を粛々と継続しつつ、環境に悪影響を及ぼさない処理手段を追求すべきです。
2. 【復興の努力を台無しにします】原発事故と震災による壊滅的な被害を乗り越えて漁業再生を目指してこられた人々に再び大きな困難をもたらします。汚染水を海に流した場合のあれこれの放射性物質汚染の数字が政府から発表されるでしょうが、数十年にわたって、原発と放射線被ばくの安全性について政府と電力会社が真実から大きく離れる情報宣伝を行ってきた歴史を体験してきた国民の多くは、海洋放出の安全性、漁獲物の安全性について大きな懸念を抱くのは必至です。トリチウム汚染水の海洋放出が当該地域の漁業に極めて大きな悪影響をもたらすことは明白です。

以上

【連絡先】札幌市北区北14西3 1-12北海道民医連会館  
医療九条の会・北海道 Tel: (011)758-4585  
ホームページ: <http://iryo-9jyo.net/>

## 講師紹介

神 聡子（じん さとこ）

看護師・環境アレルギーアドバイザー。看護師、高等看護学院講師を務めたのち、結婚。息子が小学校5年生のときにシックスクール症候群になり、「小樽・子どもの環境を考える親の会」を立ち上げる。現在は、会の運営、講演会、アレルギーや化学物質過敏症などの相談、行政への仲介・要望などに携わるかたわら、アレルギーや化学物質過敏症の方が買い物できる「絵本と環境雑貨の店ワオキツネザル」を経営。

2019年12月6日に「食と環境を考える札幌国際講演会」でアメリカのゼン・ハニーカットさん、元農林水産大臣の山田正彦さんと札幌市で講演を行った。

富塚 とも子（とみづか ともこ）

さっぽろ食まちネット 代表 1981年北海道大学農学部農業経済学科卒、81年株式会社東京エディターズ勤務、84年フリーライターを経て、87年株式会社イエローページ勤務、90年出産を機に退職。子どもがアトピーを発症したことから、生活の切実な問題として、食の安全・安心 や環境問題をテーマとした市民活動に参加。2007年から、市民として普通に暮らしていく中で直面するさまざまな生活課題を、コミュニティの力を活用して解決することを目的に情報収集、情報発信を行いながらまちづくりをすすめる市民活動グループ「さっぽろ食まちネット」を立ち上げ、代表として地域で活動。福島第一原発事故後、さっぽろ市民放射能測定所 はかーる・さっぽろ 代表。

西尾 正道（にしお まさみち）

北海道がんセンター 名誉院長、日本医学放射線学会 放射線治療専門医、日本放射線腫瘍学会 名誉会員、日本頭頸部癌学会 名誉会員、日本食道学会 特別会員  
札幌医科大学を卒業後、国立病院機構北海道がんセンター（旧名：国立札幌病院・北海道地方がんセンター）放射線科に39年間務め、2013年に同院名誉院長に就任。「市民のためのがん治療の会」を設立させ、常にひとりひとりの患者と向き合ってきた数少ない放射線治療医。また、手術室に入り外科治療と連携した小線源治療も行う。放射線治療を啓発している医師としても名高い。